

軽池北遺跡の調査

(昭和51年5月～昭和51年6月)

この調査は、檀原市立畝傍東小学校の新設工事に先立って実施したものである。調査地は檀原神宮前駅の東南 0.8 km に位置し、「軽池」の北方にひろがる丘陵と水田の一部である。

調査の結果、丘陵上で奈良時代後半頃の掘立柱建物 1, 13世紀前半の竪穴住居 3, 弥生時代と古墳時代の土壌 2, 7世紀末の溝 1 等を検出した。掘立柱建物SB120は 3 間×2 間の東西棟建物である。桁行の柱間は 2.5 m 等間であるが、梁行は 1.7 ～ 2 m とばらつきをみせ、平面形もいびつである。柱穴から出土した瓦・土師器・須恵器から奈良時代後半の建物と考えられる。

竪穴住居 3 棟は、いずれも丘陵尾根で発見した。出土した瓦器の年代から 13 世紀前半のものと考えられる。竪穴住居SB105は東壁と北壁を残し、2 × 3.7 m 程の南北に長い長方形プランに復原できる。東と北に周溝を残し、柱穴が 4 隅にある。南端に多量の瓦器を含む貯蔵穴と思われる土壌SK103がある。竪穴住居SB110は東壁と北壁を残し、4.5 × 3 m 程の東西に長い長方形プランに復原できる。東と北に周溝を残し、柱穴が 4 隅にある。西端で検出した貯蔵穴と思われるSK107から多量の瓦器が出土した。竪穴住居SB115はSB110を壊してつくられている。東壁と北壁を残すが、平面形・面積とも明らかでない。周溝は東と北に残り、東北隅の柱穴を検出した。

溝SD140は幅 7 m 以上、深さ 1.1 m を測る。自然地形による狭い谷、もしくは凹みとも考えられるが、全容を明らかにできなかった。最下層から 7 世紀末の土師器・須恵器が出土し、上層には瓦器片を含む。

竪穴住居SB105・110・115及び貯蔵穴と思われるSK103・107から出土した瓦器は、いずれも13世紀前半のものと考えられる。畿内で、この時期の竪穴住居の発見された例はきわめて少く、貴重な例といえよう。なお、詳細は『軽池北遺跡発掘調査報告』（軽池北遺跡調査会 1977 年 3 月）を参照されたい。